

# おいしい O E C ニュースレター

Vol.24

2015年6月発行

## O E C これまでとこれからの 15 年



【水辺の緑化活動】  
漫湖南岸でツツブキを植栽して、水辺植生を再現しました。

『継続は力なり』と、1999年4月設立のおきなわ環境クラブ(OEC)は、今年から16年目に入りました。当初、子どもと大人が一緒になって自然と環境に親しみながら理解を深めて行こうと、木々を水辺に植える活動から始まりました。これらの実践を継続して行くため2002年にNPO法人格を取得し、那覇市の国場に事務所を構えて、現在9名の事務局スタッフで頑張っています。

『無から有は生じない』と、これまでとこれからの特にNPO活動では、そう確信しています。NPO経営に限らず、資源とは『ヒト(ネットワークを含む)、モノ(場と有形・無形の産物)、カネ(資本や助成・融資の制度など)、情報(スキルを含む)』であ

ると定義し、OECのこれまで、そしてこれからの15年は、それらの蓄積と活用が最も重要と考えています。

OECはこれまで、JICA 沖縄国際センター(OIC)より観光や水環境、水産などの集団コース研修を受託し、実施してきました。これらの研修では、国や地域の担当分野における『課題解決』について学びます。研修の中では前述の資源について、『ヒト、モノ、カネ、情報』と復唱しながらそれぞれについて理解を深め、これらを情報として整理と活用の仕方を勉強しています。

帰国研修員が研修成果を発揮するのをはじめ、私たちのOEC活動においても、前述の資源がすべてそろったとして、最終的に国や地域において持続可能なビジネス(活動)として定着することで、これらの成果と言えると思います。しかしながら、重要な場面である『持続可能なビジネス(活動)としての定着』には、OEC自体の実体験(体現)が不可欠と考えました。

OECは、『株式会社OEC企画』を6月設立に向け、今準備を進めています。これからの15

年は、NPOおきなわ環境クラブ(OEC)と(株)OEC企画がこれまで同様『環境教育』を基軸として、NPOと会社の活動(ビジネス)として、車の両輪のように県内をはじめ国の内外に向け、広く展開・挑戦して行く計画です。

(会長：下地邦輝)



【木道からマングローブ湿地観察】  
マングローブ・シオマネキなどの生き物をガイドと観察している様子。



【JICA 研修員と守礼門で】  
アフリカ地域、持続可能な観光開発研修コースで首里城を訪れました。

## 水辺の緑化ボランティアグループ

OECは、設立以来、漫湖の周辺で緑化の実践活動を続けてきました。その中で、数名の会員さんが継続的にこの活動に関わってくださっています。みなさん定期的にお手入れをしているサガリバナ並木に愛着を感じ、一生懸命お世話してくださっています。

5月16日に行われた国場川ワークショップで、OECがボラ

ンティアのみなさんと共に漫湖の岸辺の緑化活動を展開していくために「水辺の緑化ボランティア」グループを結成しました。



活動は月に1度。2か月に1度は国場川ワークショップと同時に行い、新しいボランティアも募っていきます。

当面はOEC事務局が連絡調整を行い、ボランティア保険加入と資機材の支援も行います。関心のある方は、当クラブまでご連絡ください。

(事務局長：立田亜由美)

## エコツアー「ふらっと街中のマングローブであそぶ」

皆さんは、遠くまで足を伸ばさなくても、那覇で気軽に自然体験や生き物観察ができることを知っていますか？

3月24日～4月5日までの春休み期間中「ふらっと街中のマングローブであそぶ」と題して、身近な場所の自然を実感・体験できるエコツアーを漫湖周辺で実施しました。街中にあるマングローブや生き物を中心に、昨年12月に養成した『なはエ



### 【マングローブ湿地観察】

木道からのマングローブと干潟底生生物を観察。魚なのに水を好まないというトントンミーの話に皆さん驚いていました。

コガイド』が案内・解説をしました。

ツアー期間中は気温も上がり、干潟はカニやトントンミーで大賑わい！

野鳥観察では絶滅危惧種のクロツラヘラサギも数回見ることができました。

参加して頂いた方々には、水辺植物を植栽して、元々あった水辺植生の再現にも協力して頂きました。



### 【水辺植物の植栽】

親子で楽しくツブキを植栽しました。成長の様子を見に来て下さいね。

県内の参加者から「こんな身近に自然があるとは知らなかった」という声を数多く聞くことができたので嬉しかったです。

これまで、ワークショップや観察会を開催してきましたが、エコツアーとして実施したのは初めてでした。この経験を活かし、定款的にエコツアーが実施できる体制を目指していきたいと思います。

(研究員：当山昌治)



### 【シオマネキ発見！！】

自分の体と同じ大きさのハサミをもったヤエヤマシオマネキも観察できました。

## 恩納の海を満喫しよう！～アーサ収穫・試食・海岸観察会～

2015年3月7日、OECと会員さんの懇親企画「恩納の海を満喫しよう！アーサ収穫・試食・海岸観察会」を行いました。

この企画にご協力いただいたアーサ養殖をしている金城さんに採り方を教わりながらアーサを収穫したり、海岸観察会では

色鮮やかなサンゴや魚を間近で観察しつつ、専門ガイドから生態を解説してもらいました。

そのあと採れたての生アーサを調理。「和風オムレツ・ヒラヤーチー・お吸い物」を会話が弾む中、美味しくいただきました。

海の生き物を見たり、自分で

収穫した食材を食べるこの企画は、来年の2月～3月にも実施予定です。参加してくれた会員さん、そしてアーサ収穫の場を提供してくれた金城さん、ありがとうございました。

(研究員：当山昌治)



### 【アーサの収穫体験】

養殖用の網からアーサを収穫しました。冷凍すれば長い期間アーサを楽しむことができます。



### 【海の生き物観察会】

専門ガイドが生き物や自然環境を案内しました。ナマコを4種類も見つけました。



### 【採れたてアーサの調理・試食】

ほんとに美味しかったアーサ料理。次回は飲み物やメニューにもこだわっていきましょう。

## JICA 地域別研修「島嶼国水環境保全と管理」(第三回)

2015年1月12日～3月6日の54日間、島嶼国(地域)の水資源の環境(流域)管理に携わる政府や関連NGOの職員を対象に、島嶼国における産業の振興と安全で快適な生活、そして自然・文化の保護の土台となる

水環境の保全と管理の手法を習得することを目的に開設された「島嶼水環境保全と管理」研修を、JICA 沖縄と一緒に実施しました。

今年はその3回目で6か国8名の方々が研修員として参加。

水環境政策、上下水道管理、地域における水環境の啓発活動(環境教育)など、島嶼県沖縄における陸(流)域管理手法を軸にした個別の施策や対策技術の学習、それぞれの流域において総合的な管理手法が理解でき

るように沖縄本島・石垣島の表流水（河川）や宮古島の地下水源、多良間島の水レンズなど 4 つの島々の視察、沖縄市水道局に協力を依頼し、漏水対策に焦点をあてた講義・視察を行いました。次回への課題として、協力先の事情を鑑みつつ、もう少し離島での研修を盛り込みたいと考えています。

（研究員：矢野誠）



【石垣島研修】  
石垣島の名蔵川・名蔵アンパルにて野外講義の様子。



【多良間島の浄水場視察】  
多良間村の概要と水保全策について学んだ後、浄水場を見学しました。

## JICA 地域別研修「島嶼部を活用した持続可能な観光開発」

2015年1月12日～2月27日の47日間、カリブ・太平洋州の島嶼国から8名が参加した「島嶼部を活用した持続可能な観光開発」研修を実施しました。

カリブ海・太平洋州の島々では、観光産業が国や地域の主要な産業となり、外貨獲得や雇用拡大の面からも大きな期待が寄せられていて、自らの手で観光



【ファシリテーション技術講座】  
仮の課題に対して解決策をグループで話し合い発表している様子。

資源を持続的に活用できるようになることが今回の研修の目的です。

そのために、施設や環境の整備、観光プログラムの作成、地域産物の開発などを、講義や実習、見学を通して学び、その中で従来の観光ではなく、グリーンツーリズム（タンカン狩りやサトウキビ刈り）、ブルーツーリズム（魚釣り）、エコツーリズム（トレッキングやカヤッキング）といった持続可能な観光を体験しました。研修の最後には自国・地域の課題をどのように解決していくのか、研修員一人一人から目標と手段が発表されました。

研修員は研修期間中に、沖縄の人々が親切で誠実なこと、帰国してからも日本と観光を通し

て協働していきたいと度々口にしていました。

これから先も参加した研修員の国々と交流を深め、お互いに研鑽していくことができると思います。最後に、今回の研修を快く受け入れていただいた方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。

（研究員：末長昭光）



【サトウキビ刈り体験】  
サトウキビ刈りをした後に、サトウキビを絞り、黒糖づくりをしました。

## JICA 国別研修「ミクロネシア 3 国水衛生管理」



【簡易水質検査】  
お揃いの作業服で漫湖左岸のCODバックテスト実習中の研修員と研修監理員。

2014年11月17日～12月12日の26日間 JICA 沖縄と当クラブでは「ミクロネシア 3 国水衛生管理」研修の1年目を3ヶ国 13 名を対象に実施しました。

ミクロネシア連邦、パラオ共和国、マーシャル諸島の太平洋に浮かぶ美しい島国ですが、生

活の変化などで増え続けるゴミの処理や下水処理の面では大きな課題を抱えています。沖縄県での廃棄物処理の実態や処分場の仕組み、水質検査実習、処分場や焼却場の現場視察などを通じて浸出水管理について学びました。沖縄、日本では「ゴミは燃やす」というのが現在の主流で、一般家庭のゴミは分別して使えるものはリサイクル、残りはよく燃やして残った灰だけを最終処分場に埋め立てています。

しかし、そんな最先端の技術には、最新設備の導入、設備のメンテナンス、人件費などの運営資金など、すごくお金がかかります。現地のことを考えると果たしてそれが解決策なのか疑問です。小さな島国で無理なく続

けて出来ることをすることが重要です。

2年目は下水の衛生的な管理について学び、いくつかの水質検査を自分たちで定期的に行えるよう3年目までに機材や器具を整備し、難しい検査は外国に依頼する、といった体制づくりなどを目指します。

（特任研究員：石井周）



【離島における廃棄物対策】  
渡嘉敷島の一般廃棄物処理施設を視察中。

## 2015年1月～6月活動実績

### 【地域活動】

- ① 第35,36,37回国場川ワークショップ(1・3・5月)
- ② OEC 会員懇親プログラム～恩納の海を満喫しよう！～(3月)
- ③ イベント出展:アジェンダ 21 県民環境フェア(1月)
- ④ エコツアー:ふらっと街中のマングローブであそぶ
  - (3月24日～4月5日の約2週間)
- ⑤ 環境教育ツアー・CSR活動受け入れ
  - 韓国海洋少年団:海岸観察と環境問題について(1月)
  - 健康科学財団子どもエコクラブ:マングローブについて(4月)

### 【国際協力】

JICA 沖縄国際センター 課題別研修業務

- 島嶼国水環境保全と管理(1/12-3/6)
- 島嶼部を活用した持続可能な観光開発(1/12-2/27)
- ミクロネシア3国水衛生管理(5/25-6/19)



## 2015年7月～12月活動予定

### 【地域活動】

- ① サガリバナ観賞会(7月第1・2週目)
- ② 夏休み体験教室(8月)
- ③ 自然体験～自然であそぼ！～(10月)
- ④ イベント出展(11-12月)
- ⑤ 緑化ボランティア(通年)

### 【那覇市環境啓発事業】

- ㊦ 「沖縄の杜」で生き物探し(7月)
- ㊧ 巨木調査～巨木との出会い～(8月)
- ㊨ 身近な公園で生き物散策(10月)
- ㊩ 「沖縄の杜」環境啓発活動(12-1月予定)
- ㊪ 出前講座(通年)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
㊦	■					
①	■					
②		■				
③		■				
④				■		
⑤				■	■	■
㊦	■					
㊧		■				
㊨				■		
㊩					■	■
㊪	■	■	■	■	■	■

### 【国際協力】

JICA 沖縄国際センター 課題別研修業務

- 島嶼部を活用した持続可能な観光開発(予定)
- 中南米エコツーリズム企画・運営(予定)

イベントや出前講座に関して気軽に連絡して下さい♪



## お知らせ

この度、以下の住所に転居いたしましたので、お知らせいたします。

沖縄県那覇市国場

370番地307号室

※旧住所と同じ建物の3階です



## 会員・ボランティア募集

地域の方々が、水辺環境に親しんでいただく事を目的に、漫湖公園の河岸で緑化活動を行っています。今年度継続的に参加して下さるボランティアを募集します。お気軽に電話やメールでご連絡下さい。

※ボランティア保険料と資材は当クラブが負担します。



## 新職員からの挨拶

2015年から末長昭光、高嶺正満、平山加奈子の新職員3名が入社しました。代表してご挨拶させていただきます。



平山加奈子

身近な自然の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

## 特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

自然と環境の保全は足元から！

〒902-0075 沖縄県那覇市国場 370番地 307号室

TEL:098-833-9493 FAX:098-833-9473

e-mail : kokuba@npo-oec.com

HP : <http://www.npo-oec.com>

[www.facebook.com/OkiEnv](http://www.facebook.com/OkiEnv)

